



# NPO法人 天使のほほえみ

発行所  
NPO 法人 天使のほほえみ  
発行人 鎌田久子  
編集人 福島 紀

生命尊重推進の会

第11号 平成21年9月30日 発行

## 「天使のほほえみ」会員の皆様へ 生命尊重運動へ共に立ち上がろう

・ 具体的活動の手引き

「母体保護法改正」と「性道德の正常化」を掲げ、「道義国家確立」「少子化打破をめざす私共の運動がよいよスタートします。

日本中のお腹の赤ちゃんを守り、日本の明るい未来を築くため、がんばりましょう。

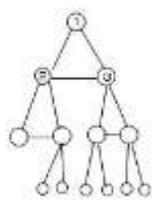
一運動項目を申し上げます。支部

長中心に動いて頂くと、力のあるものになります。

当面①一人が、できれば二人の会員を作ってください。その新

会員がそれぞれ二人の会員を増やします。すると無理なく会員 拡大ができます。

(トライアングルシステム)



対象は家族、親戚、友人、知人、友好団体の会員等

②「基幹テキスト」「運命の人」と出会ったまで「いとけなき生命に光を」等の輪読をして下さい。

③私達日本を守る側の各種講演会が開かれる時は、「訴え」十ちらシ配布をさせて頂き、できた

ら基幹テキスト販売・入会のお誘いもさせて頂けるようお願いして下さいます。

④「性道德の正常化の啓蒙」として、若い方へ「若い方へ幸せな結婚への提言」や「運命の人」と出会ったまで」を読むよう進めて頂きます。

⑤皆さんの地元で当会の講演会等が開かれる時には、参加促進をお願いします。

⑥二人以上の組になって、地域の神社庁、護国神社(全国の一覧表参照)、大きな氏神様、子育て地蔵尊などを訪ね、誠実にお話し、賛同を得て戴きます。

将来的には一

⑦各地域の心ある市会議員・町会議員に、同じように二人以上で訪ね、この運動のアピールをして頂きます。

⑧母体保護法改正の署名運動が始まったら、協力をお願いします。

○当会の主旨説明、啓蒙点は、「基幹テキスト」・「訴え」を基に、母体保護法の問題点

口、性道德の正常化  
ハ、伴侶・子供をもつことの深い意味・悦び  
二、お金のからない子育て  
ホ、中絶後の苦しみ・供養の必要 性  
一などです。

各自がお話しできる事を伝えて戴ければよいと思います。

○神社庁・護国神社等へ訪問し、お願いして頂くための手紙を書きましたので、「参考に」なさるか、そのままコピーして、「訴え」「基幹テキスト」「チラシ」等と共に「持参下されば」と思います。あらかじめアポを取ってから訪問して下さい。

○近隣の支部長・会員の方をお知りになりたい方は、fax・メール・お電話で、事務局までご連絡ください。

◎これらの中から、またはご自分で思いつかれたことで、実践されたことがございましたら、事務局までお知らせ下さい。

(理事長 鎌田久子)

私共幹部は、できるだけ早急に会員拡大し、政治を動かす原動力にしたいと思っております。  
なぜならこの運動には、鎌田理事長という、人格・識見高く、説

得力・人望厚く、この運動に大変な情熱をもたれた、優れたリーダーが不可欠であるからです。

できれば、鎌田理事長がご在籍のうちに、運動の目標が達成されることを切に願って、我々幹部一同心一つに、真剣に動いて参りたいと思えます。どうぞ皆様よろしくお願ひ致します。

(中央幹部一同)

### 「基幹テキスト」

### ご購入のお願い

今回「基幹テキスト」を各員の方に一冊ずつ無償でお配りする事になりました。ぜひお読み下さい。下記の文章を参考に、(以下三面上段へ続く)

### お友達をお誘い下さい

年会費 個人 正会員 二千元以上  
賛助会員 五千元以上  
篤志会員 一万元以上  
法人 一口 五千元以上

郵便振替口座  
00100-6-316987

特定非営利活動法人 天使のほほえみ

(住所変更の際は是非ご連絡下さい)

(第一面下段より続く)  
友人知人にお勧め下さい。

皆様の身近で、

- ・「不妊症」といわれ悲嘆にくれているカップルはいますか？
- ・「母乳不足」と言われ悲しんでいるお母さん、
- ・子どもの様々な欠点に悩み切っているお母さん、
- ・「教育費が高く子どもを多く育てられない。」と思っ ている方はいませんか？
- また反対に、
- ・予期せぬ妊娠に、「中絶しか道がない」と途方にくれて いるカップル、
- ・既に中絶してしまっ 苦し

「天使のほほえみ」の運動への思い

胎児の命を守りぬく活動を！

理事 道源 秀實

「ジュンジーニョの国際政治学講座」と言うブログで、下記のような論文を書いておられましたので引用させて頂きます。

【現代における平和の意味を考える前に、頭の体操とし

んでいる方、流産児の供養の仕方を知りたい方を存知 ないですか。また転じて、

- ・「生命の神秘」「人間の無限の力」を知りたい方
- ・「占領軍の日本弱体化政策の『母体保護法』とはどんなものか」を知りたいと思っ てる方はいませんか？

この本は、『全てのお腹の赤ちゃんと慈しむ育てる』をモットーに、優しくわかりやすく、これらの問題に大切なヒントを与えます。悩める多くの方に、また心ある方々に賛同して頂く当会の運動のために、ぜひお買い求め下さい。

て、今の日本が平和かどうかを考えてみることにしましょう。

前もつてはつきりと言っておきますが、私は、「国際的な基準からすれば、日本はとてつもなく平和である」と思っています。そして、日本が

平和であるということの例は無数に挙げられると思います。問題は、平和でない、ともし論じるとすれば、どのような視点が ありうるかということであり、そうした思考から『平和の概念』を考え直すきっかけが生まれる ということ です。

試みに、私が今年ゼミ生に出した、「日本は実は平和ではない」という例を紹介してみま しょう。

次のような命題はかなり納得 できるのではないのでしょうか。すなわち、

「まったく罪のない人が大量に殺されるようなことが日常的に起きる社会は平和とは言えない」。

もし日本の社会がこれに相当するとすれば、日本が平和であるとは到底言えないのではない でしょうか。実は、日本はこ いう国なのです。データで実証 します。

これは厚生省から出されているデータでまさに公式記録の人工妊娠中絶の数です。まずは、実際の数字を眺めてびっくりし てください。

1949年から1988年、つまり、戦後でかつ平成の前まで

の 40 年間の人工妊娠中絶の合計数は 30,104,333 人、平成に入 ったから 2006 年までの 18 年間で 6,412,402 人です。つまり、合計で 36,517,335 人がこの世に 生を受けることなく、要するに、胎児のうちに殺されている のです。これは公式記録なので、 専門家によつては、戦後の随胎 数は 1 億を超えていると言っ ます。▼ 驚くべき数字です。

一番随胎数が多かった年は 1991 年で、5,170,000 人以上が殺さ れています。少子化少子化と騒 いでいる昨今ですが、2006 年にも 276,000 人（1日に 800 人近 く。これはアウシュビッツの虐 殺に近い数字です）が随胎によ っ て殺されています。実際に生 まれた子どもたちの数の 4 分の 1 に相当します。彼らがみんな 生まれてきていれば少子化なん て問題とはならないのではない でしょうか。▼ 子どもが痛ま しい事件・事故に巻き込まれて、 例えば、学校の先生などが「子 どもたちに命の大切さを教えた い」てなことをよく言います。 もちろん、その言に偽りはな い と思います、その先生も含

めたお母さんたちのどれ位の割合の人が、実質的に人を殺して しまう随胎を経験しているの か、この数字を考えると、それ は相当の数なはずで、私は、日 本全体があまりにも偽善にまみ れていると思わざるを得ない のです。これだけの胎児を殺 しておいて、命の大切さなんて 言っても説得力なんてあるわけ がありません。随胎をする女性 は、身体だけでなく、間違いな く心にも傷を負っているもの と思います。私は、アメリカでよ くあるような、たとえば、人工 妊娠中絶をする病院を爆破する とかいったような過激な中絶反 対論者ではありません。しかし、 これはあんまりではないかと思 います。少子化転換の掛け声 や、「命の大切さを子どもに教 えないければ」という大人の声は、 度を過ぎた冗談に思えてきま す。

胎児には間違いなく何の罪も ありません。その日本人の胎児 を日本人は千万単位の数で殺し てきたのです。何の罪もない人 が大量に殺される社会が平和で あるはずがありません。  
(以下第三面上段に続く)

(第二面下段より続く)

平和ではないとすれば、日本はもちろん平和ではないし、その規模を考えると、地獄なのではないでしょうか。もしこれでも平和であると言おうとすれば、胎児はまだ人間ではないのだとも言わなければならぬと思います。あるいは、理由があれば、何の罪もないとしても胎児は殺しても構わないとするか。日本は平和でしょうか。

戦争で人を殺さなければいいのでしょうか。私たちの平和の背景にはこうした現実もあるということを知るべきです。(引用終わり)

と書かれていました。本当にその通りでありまして、私たち「天使のほほえみ」の視点もそこにあります。

私事ですが、今年三月に二人目の孫が誕生致しました。私の娘が男の子を授かったのです。現在の産科病院では、妊娠五ヶ月頃からエコー画像でお腹の中の赤ちゃんの様子をビデオに撮って見せてくださるのです。五、六ヶ月すると、指を吸っている様子や動く様子がハッキリと解ります。これは、完全に人間とし

て生を受けた人格そのもので

この立派な赤ちゃん(人間の命を絶つ権利は、誰にもありません。「子供を産む生まないは女性の判断であり、権利だ」なんて叫ぶ人たちがいますが、これは大きな間違いです。それを言うなら、新しい命を受ける状態にならないようにする事です。即ち妊娠をしないことです。

妊娠をした状態の処に『自然界の摂理』が働き生命が宿るのです。その反面いくら妊娠しましても、自然界からの生命が宿る事が無ければ、残念ながら流産となって誕生しない事になるのです。ですから赤ちゃんの宿る処を『子宮』と言って子供の宮と呼びます。自然界の命が宿るので宮です。神様をお祭りする処も『宮』ですから、それと同じです。これは日本語の素晴らしいところでもあります。

このような神聖なる赤ちゃんを経済的理由で殺すなんて、考えるだけで恐ろしい事です。お腹の中の見えない事なのでお医者様に任せて堕胎をする人は、大きな大きな罪を犯す事になります。物事に

は因果と言う事があります。何も無いのに結果はありません。逆に何かあれば必ず結果があります。堕胎と言う大きな罪を犯せば、必ずその結果として報いがやってきます。それは罪に対する報いです。これは決して宗教的な話ではなく、自然界の摂理です。

「天使のほほえみ」では、そのような不幸な事が起きる前に皆様にその事をお知らせして赤ちゃんの命を守り、お母さんが不幸な人生を歩まない為に活動を続けま

自然界からの命を受けて今この世に生まれ活躍しようとしている小さな赤ちゃんを、みんなで守りましょう。「命を大切にすると社会を築くなら、この『赤ちゃんの命』を一番に大切にすべき」と思います。

さあみなさん、『みんなが天使の心でほほえみ、新しい命である赤ちゃんを守りましょう。』

私は民生児童委員をさせて頂いています。最近の話です

が、守秘義務があり詳しくは言えませんが、ある若い女性が「児童保護手当申請の為の同居証明書に印がほしい」と来られました。そこでその事情を聴取する

必要から、「どうして母子家庭になられたのですか」と質問しました。▼ その女性は最初困惑した顔で話しくそうでしたが、「自分はまだ未婚ですが今年の三月に子供が出来ましたので、市に育児手当の申請するた

め、親子で生活している事を民生委員さんに証明してほしいのです。」と説明してくれました。私は心の中で「天使のほほえみ」を思いだし、『よくぞ産んでくれた』と喜びました。そこで「元気に頑張って育ててあげてくださいね」と声をかけました。▼

その時のその若い女性のうれしそうなお顔は、すばらしい笑顔でした。やはりどんな事情があるにせよ、『新しい命を授かり、それを大切に育てる事の素晴らしさ』を、この若い女性は自分のものとして感じておられる事がよく分かりました。▼ 勿論、未婚で子供を出産する事を薦めるわけではありま

せん。しかしいろんな事情でそのような境地に至っても、命を大切にすることが本当の喜びに繋がる事を体験させて頂きました。

このような「天使のほほえみ」活動に一人でも多くの方が参加下さり、本当の世界一平和な国を築こうではありませんか。

そもそも日本文化は、「命を大切に、和する精神」であります。本来の日本文化を取り戻す事が「天使のほほえみ」の本当の活動であるとも言えるのではないのでしょうか。

(第四面下段より続く)

黒いポロシャツにベージュのズボン。おしゃれに着こなしている。親バカじゃなくとも垢抜けしていてカッコいい。逞しく美しく育った我が子を見上げて、ほんとうに生まれてくれてありがとうと叫びたくなった。

「靖国の英霊さま、彼らが日本国を担う使命を全うできますようお導き下さい」と祈らずにはおれない。



# 私の会員拡大への提言(1) 愛と信頼関係を軸に会員拡大を

理事 藤野 世子

合掌 有難うございます。

鎌田先生はじめ、皆様方の日々の献身的な活躍、深く感謝申し上げます。

さて、天使のほほえみ会員拡大のコツということですが、私の場合あまりそういうことを考えずに、皆さんに協力をお願いしてきました。谷口雅春先生が「車が走るのタイヤの跡を付ける為ではなく、目的を持って走つていけば自然にタイヤの跡がつく」ということをいわれていましたので、それが結果的に会員増加に繋がるということになると思います。

同志の方や姉妹に数人の子供がいてお願いすれば快く会員になってくれました。

「一番大切な、胎児も嬰兒も人間である。人間は神の子である。天照大神の直系の御子である。殺すなかれは最高道徳である」ということに加え、心の法則等をお話しすれば、信徒の方はよく分かかっておられるので、共鳴して頂け

ます。

その他の方には、今の深刻な少子高齢化問題、多発する目にあまる非道な事件等を話題にして話を進めていきます。

終戦後すぐヘレンケラーが来日され、「あなたの手持っているランプをもう少し高くかかげて下さい」と、障害者に対する支援を呼びかけられました。その当時、飲まず食わずの大変な時代にもかかわらず莫大な募金が寄せられた、ということですが皆さんに「もう少し」ということを強調すれば良いのでは、と思います。ともかく国防・教育・介護その他どんな問題も日本国民の数がなければ、とくに若者の数がなければお話しになりません。健全な結婚生活を営んで出産、育児を体験し、自分自身の成長にもつなげ、円相的な人格の完成を目指して頂けることを、自分も含め願っています。

著しく尊い神の子が、無知

であるが故に、我が子を殺し、人を傷つけ、因果の理法の中で苦しんでいる姿を見るのは、とても悲しいことです。「知らないということが最大の罪である」ということですので、先に真理を知っているものから、一人一人が出来ることから努力して行くことを心がければ、いつか花開く

## 私の会員拡大への提言(2) 出産・育児に優る仕事はない

宮崎県 良本 智子

次男を身籠もった時、最初胃腸科に罹った。まだ上の子を出産したばかりだったからである。先生に症状を伝えると産科へ廻された。そこで「三ヶ月です」といわれた時には愕いた。予期していないことだったからである。

帰宅して家族に告げると「よかった、おめでと」という言葉は聞かれなかった。出てきた言葉は「どうするの？」だった。この時「生むに決まっているでしょう！」と、即答できたのは【中絶は殺人である】という谷口雅春先生の教えがあったからであ

時を迎えると思います。この問題は根が深く、一朝一夕にはいかにないことですが、自分の心を愛で満たし、チラシ等の資料を活用して足を運び、あの人のいうことであれば協力しよう、と思つて頂けるよう信頼関係を築き、出来るだけ会員を拡大するように心がけてまいります。

る。私の高校生の頃は「理想世界」誌上に【優性保護法は悪法である。一刻も早く改正しなければ赤ちゃんが闇から闇に葬られてゆく】と、繰り返し書かれていた。

我が家の子供達は二人共、病気が一つせずすくすくと育つてくれた。

次男が二、三才の頃だったか、夫に「産まない方がいいと言つたよね……」と言つてみた。「そんなこと言つた覚えはない」と怒つた。愛くるしい子供を見て、不謹慎な言葉など記憶の彼

そう、母親たるものは周囲の現実的な言葉に惑わされてはいけない。授かった生命は産むんだ、という毅然とした態度で望まなければならぬと思った。

「Eさん(女優)って演技がうまいわね。女優の中でもピカ一だわ」と私が言つたら、友人曰く「彼女、中絶しているのよ。仕事を続けるために。生命より大切な仕事がこの世の中にあると思ふ？」。あの女優が女優という仕事を続けるために、生命を葬つたのか……。そう言えば素晴らしいボランティア活動をしている、やはり女優のMさんだつてそうだ。愛する人の子を身籠もつたのだから、揺れる思いは相当あつたと思う。でも最後の線でも仕事を断したくないという選択をしてしまったのは、根底に唯物史観があつたのだろうか。

女性が、生まれ出る生命を殺してまでする仕事は、この世にはないと思ふ。

次男は今、東京の大学に通っている。(靖国神社のすぐ近く)夏休みに帰省した時、空港へ迎えに行った。

(以下第三面下段へ)